

第2回進路説明会 6、11、8

みなさん、こんにちは

保護者の皆様、本日はご多用の中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

9年生のみなさん、第2回学力診断テストと期末考査の結果を受けて、より一層、受験勉強に熱が入っていることと思います。さあ、いよいよ本格的な受験シーズンに突入します。一番早い私立高校の専願推薦入試まであと69日です。1日、1日が貴重な時間となります。前回の説明会でも申し上げましたが、受験は団体戦です。みんなで励まし合いながらこの受験を乗り越えてください。

さて、今回は、私から県立公立高校の受検について、3つお話をさせていただきます。一つは、特色化選抜入試、二つは、県立公立高校の受検にあたってのお願い、三つは、これから先の高校入試の動向についてです。

◆まず、【特色化選抜入試について】です。

福岡県では、3年前から一部の県立公立学校で特色化選抜が実施されています。本年度は、宗像高校、光陵高校、玄界高校、水産高校、古賀竟成館高校、宇美商業高校、福岡工業高校、折尾高校、遠賀高校などです。

この高校の中には、特色化選抜入試しか実施しない学校と特色化選抜と推薦入試を両方実施する学校があります。

そこで、まず、【特色化選抜入試しか実施しない学校について】お話しします。

この特色化選抜入試の試験は、自分の意志で出願できます。しかしながら、誰でもということではなく、それぞれの高校が独自で定める「内定基準の評定値」というのがあります。(各高校のホームページに掲載されていますので後ほどご確認ください。)

この「内定基準の評定値」は目安としているため、内定上限人数に達していない場合は受験者の評定値が内定基準を少し下回ったとしても、合格する可能性がでできます。またその逆に本年度は上限人数を超えて合格者を出すことはないとの説明を受けておりますので、受験者数が上限人数を超える場合は、内定基準を超えていてもわからないということになります。

一方の、【特色化選抜と推薦入試を両方実施する学校】については、特色化選抜で示した内定基準の評定値を下回っている場合は、推薦入試で受験するように高校側から説明があつています。なお、特色化選抜入試と推薦入試は二つのうちどちらかしか受検できませんので、「内定基準の評定値」を満たしていない場合は、推薦入試を希望されることも一つの方法と考えます。

なお、推薦入試については、学校推薦になりますので、希望する高校の推薦基準を満たしており、さらに、本校の校内推薦基準を満たしていないと推薦できません。校内推薦検討員会で審議し、校長が最終判断をして、2学期の終業式後に文書でお知らせいたします。

受験者の評定値(数値)については、受験者及び保護者に教えることはできませんので三者面談にて本人の評定値が受験校の数値を「上回っているのか・下回っているのか」を説明いたします。

るのか」についてご相談ください。

◆次に、【県立公立高校の受検にあたってのお願い】です。

「県立公立高校を見事、合格した場合、入学辞退はご遠慮ください。」

県立公立高校は、合格した際に入学することを前提として、受検してください。

これは、高校側からくれぐれもお願いされていることです。

よって、特色化選抜入試で県立公立高校を合格した場合は、私立高校の受験の辞退をお願いします。

もう一つはお試し受検です。

私立高校に進学すると決めているのに、自分の力がどれくらいあるか試しに県立公立受検してみるというケースです。これもやめてください。

ここで、お伝えしておきますが、高校合格発表後の入学辞退は、本校の進路指導の在り方が問われます。本校と相手高校との今後の信頼関係の問題に発展します。

もし、辞退する者が出ると、私が本校を代表して、辞退届を持って直接高校へ出向き、その高校の校長先生に、謝罪をしなければなりません。それぐらい、重要な問題ですのでくれぐれもご理解いただき、よろしく願いいたします。

◆3つは、これから先の高校入試の動向についてです。

高校では、生徒の主体性が重視されています。させられている感・してもらっている感からの脱却が必要とされているのです。そのため、高校側が求める生徒を入学させるため、高校の入試制度も変わってくるということです。

私学においては、様々な学校で教育課程の改革が行われていますが、そんな中、県立公立の普通高校が特色化選抜を実施するようになった経緯をご説明しますと、文部科学省による調査では、全国の高等学校の数は、およそ4800校で、高校生の数は、295万人余りです。そのうちの約3700校が普通科で、全体の7割を占める217万人が普通科で学んでいます。今や、中学校を卒業した人の99%近くが高校等に進学をしています。

しかしながら、普通科の高校が抱える最大の課題は、生徒たちの学びへのモチベーション維持と言われています。高校全入時代にあって、一部の生徒たちには、意欲的な高校入学の理由が不足していると言われています。高校は義務教育ではありませんが、特に普通科高校は、高校によっては中学校の勉強の延長になってしまいがちの状況にあります。専門学科ある高校は、実習や専門知識の授業も多く、入学後、否が応でも学び姿勢が変わりますが、普通科では、中学時代と同じような受け身で授業が進んでいくことがあります。さらにその姿勢のまま大学に入ると、高校までの受け身の学び方と大学で求められる主体的な学びとギャップが生じてしまう状況が起きています。

今、社会が求めている力は、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力・学び続ける力なのです。それを踏まえ、高校生に求められている力は、主体性と当事者意識なのです。今の子どもは、「規律を守って、人の話はよく聞けれど、自分から進んで、課題を発見し、行動する力が足りない」と高校の校長先生方が言われています。普通科高校でこのような力を育むため、一部の高校で学校の特色を明確にし始め、3年が

経過したところです。

高校卒業後のことまで考えて、学校を選ぶのは、多くの15歳にとっては難しいことです。しかし、今までのように偏差値で漫然と普通科に決めることが高校での受け身の学習姿勢をつくってしまうと考えられています。だからこそ、偏差値ではなく、やりたいことで学校が選べるように、「この高校では、こんなことができる」という風に普通高校が特色化を示してきているのです。自ら主体的に選んだ学校なら、生徒達も主体的に学ぶ姿勢に変化していくはずです。そのため、高校では、体験入学や説明会等が頻繁に行われるようになりました。多くの学校の子どもたちは、自分に合った学校を選ぶため、主体的に参加をしていると思います。

このことを踏まえ、中央中学校では、子どもたちが主体的に学べるように授業改善等を行っています。目指す子どもの育成をめざし、特に生徒の主体性と当事者意識を育むため、小中一貫コミュニティスクール中央学園で連携をし、シティズンシップ教育の理念を推進しています。

その一例として、総合的な学習の時間の延長にジュニアサポーター制度があります。地域貢献のボランティアとして、田熊山笠・元気フェスタ東郷・南郷まつり・いせきんクエスト・小中合同挨拶運動・小学校子ども大学・南郷まつりなどのボランティアをここにいるたくさんの9年生が忙しい自分の時間を調整し、「人を幸せにすることを最上位目的」として自ら行動を起こしています。他の学校にはない主体的な取り組みです。是非、その主体性と当事者意識を高校でも発揮してくれることを期待しているところです。

最後になりましたが、保護者の皆様、子どもさんの進路を決めるにあたり、ご家庭でしっかり話し合い、納得の上で受験させてやってください。

高校受験以外での進路をお考えの場合は、学校もできる限りの情報提供をさせていただきますので、ご相談ください。

それでは、この後の説明をしっかり聞いていただき、ご不明な点は本日以降、担任へ遠慮なくお尋ねください。以上で、校長あいさつをおわります。